

マイケルJローズ ニュースレター 2006年 夏号



光の皆さんへ

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、マイケルの最愛のパートナーであるトリーニーが6月10日に逝去されました。そのため、従来のニュースレターはお休みさせていただきます。このお知らせをもってニュースレター夏号の代わりとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

6月24日にトリーニーの葬儀に参列するため4名の方たちと一緒にオーストラリアへ行ってきました。今回、そのときの私の報告の一部、それから、葬儀のときそれぞれに息子さん家族や友人がトリーニーへの感謝の言葉を述べられたので、そのときのマイケルとカトリーナの感謝の言葉をお伝えします。

トリーニーが亡くなったのはアメリカでのリトリートが始まるその朝のことでした。そのときの主催者であるキャロリンがアメリカのメーリングリストを通して送ったメールとリトリート参加者であるアナベルの手紙も一緒に翻訳・掲載させていただきました。

トリーニーが話してくれた真理の言葉の中で私が日々、響かせている言葉があります。

それは、let go, let go, let go です。手放して、手放して、です。

何か心がすっきりしない、楽しくない・そんなとき何かを握っています。つかんでいます。

こうあってほしい、こうなってほしい、あの人はこうすべきだ、うまくいかな、どう思われるか・・・

何を自分がつかんでいるのかを調べて手放すことです。

すると気持ちが軽やかになります。いつも、いつも、手放しです。

もう一つは follow your heart です。

ハートで感じることを信頼して生きることです。ハートで感じることを、自分を大切に、大切にすることです。

たくさんのことをトリーニーから学びました。真理を生きる勇気を、愛を、平安を。

トリーニーにたくさんの愛と感謝を送ります。ありがとう。

先日蝉の鳴き声が聞こえてきました。夏を告げる大自然の調べです。元気に楽しく夏の日々をお過ごしください。この秋、リトリート・セミナーで、皆さんとの新しい出会いと再会を楽しみにしています♪

愛と感謝を込めて やすみ

ニュースレター購読者の皆さんへ by Carolyn 2006/7/10

(訳注 キャロリンはアメリカのオーガナイザーであり、ニュースレターの編集者です。そして、マイケル・トリーニーの長年にわたる素晴らしい友人です)

皆さんにお知らせがあります。トリーニーの突然の逝去のため、ニュースレターの夏号はキャンセルさせていただきます。マイケルとマイケルの家族、そして、私自身もですが、新しい始まりとしての準備期間が必要です。ご理解と忍耐に感謝します。

トリーニーの旅立ちをまだご存知ない方たちのために、メーリングリストでお送りしたメール(訳注:次の文章、トリーニー訃報のお知らせです)を掲載します。最愛のトリーニーへのマイケルの言葉、それから、トリーニーが息を引き取った朝、中止になったリトリートの参加者として参加者グループの経験を書いたアナベルの手紙も送ります。www.MichaelRoads.com のHPではトリーニーの美しい写真、彼女の葬儀のときに演奏されたナナとアンキの歌も聞くことができます。(マイケルがトリーニーのために書いた詩に二人が曲をつけたものです)

終わりに、ウェブサイトでマイケルが書いたものをお知らせします。
「私たち家族は、これが一つの終わりというだけでなく、新しい始まりであることを知っています。私たちそれぞれの人生においてこの新しい始まりが意味することに気づくのは、私たち一人一人次第です。
トリーニーを愛してくれた皆さんも、新しい始まりを歩いてください。そして、あなたの可能性に実現をもたらしますように」

私たちはいつもあなたたちと共にいます。 輝かしい愛と光の中で キャロリン

トリーニー訃報のお知らせ by Carolyn 2006/6/22

トリーニーの突然の訃報をもう多くの方はご存知と思いますが、まだ知らない方たちのためにこの手紙を書いています。

6月10日土曜日の朝、トリーニーは突然、亡くなりました。オレゴン州のフッドリバーでリトリートが始まるその日のことでした。

アメリカへ来る直前、彼女はドイツで具合が悪くなり、病院へ運ばれ、検査を受けました。しかし検査をしても悪いところは見当たらず腹部痙攣の原因を見つけることはできませんでした。アメリカに来て3日後、再び具合が悪くなり、病院へ運ばれあらゆる検査を受けましたが、そこでも、腹部痙攣の原因を見つけることはできませんでした。

翌朝早くに、私が彼女の様子を見に病院へ行ったとき、彼女は看護師と話をしていました。その看護師がトリーニーとの談話を終えて一旦病室から離れ、15分後に彼女のところへ戻ると、彼女の心電図の波形は心臓が止まっていることを示していました。医師たちは電気ショック療法で彼女を2度蘇生させ、あらゆる手だてを尽くしました。死の原因は内部出血だろうと判断されました。彼らは、脾臓か動脈から出血があったのでは・・・と推察しています。

連絡があってマイケルと私はすぐに病院へ駆けつけましたが、彼女の意識が回復することはありませんでした。マイケルも私もトリーニーが彼女の体に戻ることはないと感じました。彼女にとって次へと向かう時であることは明らかでした。医師たちが、もう回復の見込みはないと告げたとき、マイケルは生命維持装置を取り外すようにと言いました。その後が続く状況を書く言葉が私には見当たりません。

彼女が肉体を離れてから4日目に、マイケルはトリーニーとの2時間に及ぶ深いつながりを経験しました。それが、マイケルを悲しみから抜け出させることになりました。

おそらく、いつかこのことをマイケルは書いてくれるだろうと思います。

次のようなことを書くことはおこがましいことですが・・・
オーストラリアに向けてポートランドを離れるころには、マイケルは偉大な人であることを証明していました。ここ2週間にわたる出来事は、人間の可能性においてより偉大な新しいレベルへと彼を押し上げる出来事であると私は信じています。もうすでに、そうであることをこの目で見ています。

彼らの結婚と深い愛は、肉体を超えて続けられ、これからも共に歩き続けるでしょう。

私の知る限りトリーニーはもっとも愛の深い人でした。この点でトリーニーに優る人はいません。あらゆる瞬間に愛を選択することで、私もトリーニーに敬意を払いたいです。

皆さんにも、そうしていただけたらと思います。この瞬間から、です。
彼女の愛は永遠に私たちのハートの中で生きることでしょう。

禪の言葉を書いたカードがあります。トリーニーのことを完璧に表していると思います。
「宇宙を満たすハートは、宇宙のように終わりのない広大なハートです」

* * * * *

トリーニーが逝去された朝は、アメリカでのリトリート一日目でした。マイケルと私(キャロリン)が病院へ行っている間、キャロリンは参加者に様子を知らせるためホテルで待機していました。アナベルからの下記の手紙はその朝、参加者に起きたことを書いてくれています。
キャロリン

光と愛の環から by Annabelle Whiting 2006/6/16

今回のリトリートは他の参加者同様、私にも大変深い影響を与えました。私の中からの問いに対する答や学んだことから、私は、今回いるべきところにいたと確信しています。マイケルが病院にいるトリーニーの側にいた土曜日の朝、リトリートのために集まった参加者は座って皆で一緒に瞑想をしました。純粋な愛と光でマイケルとトリーニーを包み込みました。私たちはやさしくバランスと空間を保って、トリーニーが選択する自由を認め、私たちの利己的な望みや欲求によって、彼女の選択を妨げないようにしていました。彼女のスピリットが金色と白色の光の中へと上がっていくのを見た人たちがいました。その白い光が消えるのを見た人もいました。大きな犬が彼女のベッドの側で我慢強く座っているのを見た人、彼女が子供たちにさようならと言う声が聞こえた人もいました。私たちの多くは、トリーニーから愛と光が返ってくるのを感じました。

前もって計画されていたことではありませんが、とても自然に思われたので、瞑想の後、参加者のうちの12名が愛の環を作って新しい参加者を取り囲み、彼らを歓迎しました。キャロリンとトリーニーがいれば、きっとそうしたように。

それから、瞑想のときの経験を静かに語り合いました。私たちは、それぞれが自分の真実を話すことができるように、新しい友人たちが作られている空間に安心できて居心地よく感じられるように、そのような空間を作るよう心がけました。

参加者の一人が、その人はチャネラーですが、ゴールデン・アロウという名前のエネルギーグループに属するスピリットと心を通わず機会を与えてくれました。そのエネルギーが「全てはあるべきところにあり、私たち全員、この場に在ることに過ちはなく、それぞれが理由をもって今ここにいる」ことを思い出させてくれました。ゴールデン・アロウとの対話が終わったとき、キャロリンが戻ってきて、トリーニーが旅立ったことを私たちに伝えました。

私は集まってきた小さな集団の一人でしたが、そこでは皆が一体となり、喪失の深い悲しみが漂う機会に、愛があふれる安全な空間を保っていました。そのとき、私たちはトリーニーの愛そのものであったと信じています。私たちは一体となって、広大で無限の無条件の愛となり、私たちの人間性にまで達し、人間性を最善のものと受け止め、高め、弱さやはかなさの瞬間をその愛で包み込みました。私はこれまで経験したことのない生き生きとした静寂さで満たされ、不確かで悲しい時間を、大地に足をつけて、オープンでそして平安でいることができました。

翌日、傷心のマイケルが、私たちに対してのお手本を示してくれました。彼は私たちに完全な手放しの本当の意味を教えてくださいました。喪失感の深みから、どのように手放しを実践するのかを私たちに示しました。私は光栄でした。マイケルが自らの選択をして虚無と絶望の灰の中から立ち上がることができるよう愛あふれる場を保つことができたこと、私が小さな役割を果たしたことが分かっていたから。彼の感情を放つとき、彼は一人ではなかったと感じますし、そう感じました。トリーニーは決してマイケルの元を去ってはいません。彼女は彼の側にいて、彼がそのことを思い出せるよう手助けしました。何も変わってはいません。彼は、これまでと同じように彼女と手に手をとって彼の光の働きを続けることでしょう。彼の最愛の妻とともに、です。

何も変化していません。それでも、全ては変化しました。

私が経験した絆と無条件の愛は大きくなりました。その愛はとても大きく、明白で殆んど触れることができるものでした。そして、日曜日の朝食のとき、キャロリンがマイケルの残りの一年の予定の知らせを話してくれたとき、疑いなく輝く新しいトリーニーが私たちを取り巻いていることが分かりました。

In loving Celebration of the Life of Treenie Roads

最愛のトリーニーへ マイケル・J・ローズ

(6月24日葬儀にて)

トリーニーのことを過去形で書くことはできません。私たちは大いなる光の存在であったし、今もそうであり、二人とも絶えずスピリチュアルな旅をしています。そして四十八年間、体も心も一体となって楽しんできました。

トリーニーの体はなくなりましたが、私たちの魂の結婚はこれからも続けられます。

二人が今もしっかりと愛の交流をしているというのに、いつまでも嘆くことはできません。私はトリーニーが亡くなった後の二十四時間、ずっと泣き続けました。そのとき、終わりのない絶望の穴を落ちていく私がありました。

私が悲しみから目をそらしたとき、トリーニーの愛と光が見えました。私は悲しみよりも、愛を選びました。愛だけが本当にトリーニーを敬うことになるからです。

身体的な結びつきと違い、この新たな結婚は100%意識ある結合でなければなりません。

新たな結びつきには感情的、身体的つながりがないからです。トリーニーの旅立ちからこの二週間で私たち二人は高く跳躍しました。

喜びと愛であった最愛のトリーニーについて書くことは簡単ですが、彼女は今も私の人生の中にいます。誰もこれ以上のパートを持つことはできないでしょう。彼女の終わりのない忍耐、連れ合いとしての交流、絶えざる平安と愛のオーラに対して賞賛と感謝の気持ちでいっぱいです。

決まり文句を引用すると、私たちの結婚は天国でなされ・・・そして、天国において、続けられます。なぜなら、天国とは意識の状態だからです。

トリーニーはいつも私の人生の、私の強さの、私の変わることのない愛の光でした。彼女の愛と思いやりは彼女が出会った全ての人の心に触れました。毎年のスピリチュアルなリトリートの旅で、彼女はたくさんの人に会いました。トリーニーと出会う誰もが彼女を愛しました。リトリートでは彼女の愛が多くの人生を変化させたので、それは「愛の爆弾」として知られていました。

事実、彼女は私に話しました。彼女の愛が大きくなってきて、体に留まることが難しくなると。私もこの三年間、今回の彼女の旅立ちを覚悟してきました。避けられないことがまじかに迫ってきていることを知っていましたから。

それにもかかわらず、彼女との別離の現実が私を打ちのめしました。

嘆きはありません。魂のレベルにおいて、これはトリーニーが計画したことであり、選択したことだからです。私に対する彼女の最後の言葉は、「死にたい」でした。日々の暮らしで美しいトリーニーに会うことができないため、計り知れないほどの喪失感があります。しかし、これは私が受け入れ、学ぶことです。

愛で包んでくれる素晴らしい家族、愛ある家族がいて、私は幸せです。旅立ちのとき、彼女は子供たちにとって特別な方法で一人一人に触れました。

だから、これは別れの賛辞ではありません。愛するトリーニーの絶えることのない生命への感謝の言葉です。これから手をつないで歩くことはありませんが、メタフィジカルにはこれからも手をつないで歩き続けるでしょう。私たちのハートは一体となって鼓動を打っています。大変尊い贈り物です。

トリーニー、私の愛しい人、愛しています。

トリーニー・ローズ 1936~2006 2006年6月10日アメリカ合衆国オレゴン州ポートランドにて逝去

トリーニーとの不思議の瞬間 カトリーナ・ローズ

(6月24日 葬儀にて)

最新号のニュースレターの中で、トリーニーは彼女が経験した不思議の瞬間について書いてくれました。彼女は彼女自身の経験を通してたくさんのことを私に教えてくれました。その中の一つは今、この瞬間にいます。私がしていることとともに、この瞬間にいます。そこにはたくさんの喜びがあります。

トリーニーとともにいて、私はたくさんの不思議の瞬間を経験しました。

たとえば、ゼンといるとき彼は何度も「おんも」といって彼女の指をひっぱりました。それが10回目であっても、彼の情熱と熱意を愛する彼女は彼に微笑んで、一緒に外へ出たものです。ゼンに彼の「ヤムヤム(おいしいもの)」を忍耐強く食べさせてくれたこともそうです。彼の喜びが彼女自身の喜びでした。

台所の戸棚もゼンの好きにさせてくれました。マイケルの反対があったにもかかわらず愛用のパン焼き皿の上にゼンを座らせてあげたものです。ゼンと一緒にマイケルの道具小屋にこっそり忍び込んで、ハンマーや釘でゼンが遊ぶのを楽しんでくれました。マイケルは嫌がって「全部、きちんと元の場所へ戻しておいてくれよ、トリーニー」と叫んでも、です。聞きたくないことに対しては知らん顔するトリーニーの様子が大好きでした。

妊娠中で暑い夏に参っていると、私が元気になるからとプールの水を冷たくしたため、男性たちはその冷たいプールに我慢しなければなりません。毎週日曜日のお昼にはゼンと私たちが食べられるものだけを料理してくれました。

トリーニーとマイケルは前夫の家から追い出されてどん底にいた私を見つけると、その日のうちに彼らの家へ連れていってくれました。

彼女は居間の本棚の側に立ち、私の目から魂をのぞきこみ、「カトリーナ、あなたが『私は覚醒していない』と言うことは傲慢の極みよ。あなたは、目覚めているの。あなたは、本当のあなたなの。だからただそのことを受け入れなければならないだけ。あなたであることを否定することは唯一の本当の意味で傲慢なのよ」と言いました。その言葉は私の胸にさざりました。彼女は本気でした。

トリーニーは私が出会った中でもっとも素晴らしい女性でした。インドで一度ダライ・ラマに会ったことがあります。そのときも不思議の瞬間でした。ダライ・ラマに会う必要はなく、ダライ・ラマを経験する必要があることに気づいたことが私への贈り物でした。私は彼を経験しました。彼の愛あふれる存在に、情熱の体現に感動し涙を流しました。彼は覚醒した存在です。そのことを確信しています。その瞬間に気づいたことは、私が実際は彼を感じているのではなく、彼の存在の中で、私を感じていることでした。

私が感じた愛と思いやりは私の中にあって、それが私の中にあることを彼はただ示してくれたのです。

トリーニーもまったく同じことをしてくれました。トリーニーの場合、彼女は女性の思いやりと無条件の愛を現していました。トリーニーとともにいて、私は彼女の中に感じている愛が私の中にあることを学び始めました。そして、彼女と同じように私自身を愛し始めることができました。なぜなら、私の中に存在しないものを彼女が作り出すことはできないからです。日々ゼンに読み聞かせている絵本のように、です。その絵本の中で子猫はゴロゴロ喉を鳴らすことができなくなったと思い、長い間、その声を探し、独自の声を出す農場の動物たちとも話をした後、母猫の元に戻り、愛の存在の中でその声はずっと自分の中にあつたことを発見し、何も見出す必要のないことがわかります。私にとってそれはトリーニーからの贈り物でした。

彼女はリトリートでたくさんの人々に愛の爆弾を落としました。そうすることで人々の中に在る本当の自分であるセルフの愛を引き出し、そのことを皆と分かち合いました。そのために気分が悪くなる人もいましたし、目覚める人もいました。たくさんの奇跡が起きました。トリーニーの日々の愛は、不思議そのものでした。

もう一つ教えてもらった特別な不思議は、存在するだけで十分であるということでした。何もする必要はなく私であるだけで十分ということです。本を書く必要もありませんし、何かで有名になる必要もありません。たとえ有名であったとしても本当に人生を、あるいは世界を変化させるにはハートから生きること、愛あるところから生きることそれで十分なのです。

トリーニーはそのように生きました。彼女はどう生きてきたかを話してくれました。それは大変シンプルなことでした。彼女は家事をし、友人や家族を楽しませました。日々の一つ一つの仕事を心から、そして賞賛しながらしていました。彼女はマイケルのすばらしい支えでした。

そして、世界中に愛の爆弾を落としました。全てのことにおいて彼女はいつも彼女らしく、不思議で愛あふれる人でした。道を示してくださってありがとう、トリーニー！！

(お断り: マイケルとカトリーナの言葉はラブライトML・HPでお知らせしたのですが知らない方もたくさんいらっしゃるので掲載させていただきました)